

⑤ 捕獲した鳥獣の効果的処理（減容化など）の事例

捕獲個体利活用による鳥獣被害対策費用軽減の取組

事例対象地：長野県

団体：長野県小諸市

HP：<https://www.komoron.com/komoro-premium-for-dogs/>

キーワード：

捕獲個体利用率の向上

ペットフード

1. 概要

小諸市では、従来の猟友会主体の捕獲実施体制から実施隊による公務としての捕獲実施体制に移行したこと等により、捕獲された二ホンジカが迅速に商品化施設に搬入することが可能となった。このため、駆除個体の利活用が進み、令和元年度に小諸市で駆除された二ホンジカのうち96%を商品化することを実現している。

2. 取組の経緯

小諸市野生鳥獣対策実施隊の結成に伴い、捕獲圧が上昇・捕獲数が増加した。その結果、農業被害金額が減少した一方で、捕獲報償費、個体処分費が高額となり、対策経費が高騰するという新たな問題が発生した。問題解決のため処理経費を削減する必要に迫られ、捕獲個体の商品化事業を実施するきっかけとなった。

3. 捕獲体制ならびに解体施設の運営形態

実施隊は農林課長を統括責任者、実施隊隊長は鳥獣専門員が担い、麻酔部・研究部・研究部・事務局に組織化された約50人の体制で鳥獣対策を実施している。事故防止の観点から銃器による捕獲を原則禁止している。

商品化施設では地域おこし協力隊員、小諸市臨時職員、シルバー人材センターから派遣された人材が、搬入されたシカの解体・加工に従事している。

4. 取組内容とポイント

●利用率の向上を目指す工夫

- ・くくり罠による捕獲により利用率を向上。
- ・公務としての捕獲体制とし、捕獲個体の管理を徹底。
- ・食用肉と比較して搬入時間に余裕を持つ。
- ・状態が悪いものは受け入れない。

●一定の顧客層を狙った戦略的販売手法

- ・高級志向の商品として売り出すことを目的に据え、衛生レベルの高い設備を整備。
- ・収益の向上と一層の資源活用を図るため皮革を市内のメーカーに販売。

	H28	H29	H30	R1
搬入個体(全自治体)	276	598	902	1,519
個体利活用頭数(小諸市内)	276	185	187	246
小諸市捕獲個体利用率	89%	97%	92%	96%
商品化事業 収入(万円)	133	729	1,561	2,372
商品化事業 支出(万円)	495	981	1,408	2,387
商品化事業 損益(万円)	-362	-252	153	-15
焼却処分費 予測(万円)	-335	-225	-227	-303

※焼却処分費は小諸市で駆除された鹿を焼却した場合に必要な処理経費の推測額

表. 小諸市野生鳥獣商品化事業 運営状況